JP

User manual

v1.0 - 05/2022

Genie X Lite

Genie X Lite LIGHT XC HARNESS

Gin Glidersは正確な情報を提供するよう努力していますが、製品の仕様は予告なく変更されることがあり、表示されているものと異なる場合があります。

CONTENTS

Genie X Lite

はじめに 4

注意事項 5

Genie X Liteの紹介 6

スペック 7

Genie X Liteの構成要素 8

飛ぶ前に 9

レスキューシステム 11

ストレージ 17

調整方法 18

Genie X Liteでの飛行 21

メンテナンスと修理 24

終わりに 27

ハーネスダイアグラム 31

ありがとうございます

Gin Glidersをお選びいただきありがとうございます。 私たちは、あなたがGINハーネスと一緒に空中で多くの実りある経験を楽しむことができると確信しています。

このマニュアルには、安全性、性能、メンテナンスに関する重要な情報が記載されています。最初のフライトの前に読み、参考のために保管し、ハーネスを再販する場合には新しい所有者に渡してください。

このマニュアルの更新や関連する安全情報は、当社のウェブサイトwww. また、当社のウェブサイトから電子メールによる更新を登録することもできます。

Happy flying and safe landings,
GIN Team

GIN

警告事項

他のエクストリームスポーツと同様、パラグライダーには怪我や死につながる可能性のある予測不可能なリスクが伴います。フライトを選択することで、これらのリスクに対する全責任を負うことになります。適切な姿勢、トレーニング、経験を持ち、装備を正しく理解し、使用し、メンテナンスすることでリスクを最小限に抑えることができます。常に自分の知識を増やし、自立心を養うように努めてください。わからないことがあれば、まずは窓口となる販売店、または各国のGIN輸入代理店、Gin Glidersに直接相談してください。

パラグライダー中に起こりうるすべての状況や状態を予測することは不可能であるため、本マニュアルは、あらゆる状況下でのパラグライダー機器の安全な使用について言及するものではありません。Gin GlidersおよびGIN機器の販売元は、あなた自身や他の人の安全を保証したり、責任を負うものではありません。

多くの国で、パラグライダー活動に関する特定の規制や法律があります。フライトする地域の規制を知り、遵守することはあなたの責任です。

使用目的: *パラグライダー部門で運用される、最大質量120kg未満の軽量エアスポーツ機器。*

GENIE X- LITEの紹介

Genie X-Liteは、レジャーやクロスカントリーのためのフル機能を備えたハーネスで、これまでにない軽量化を実現したハーネスです。最先端のバックプロテクション、コクーン、エアロコーン、アンダーシートレスキュー、優れた人間工学と耐久性など、期待されるすべての機能を備えています。コクーンタイプのハーネスでのフライトを希望するすべてのパイロットに適していますが、その軽量さにより、このタイプのハーネスの典型的な用途は、ハイク＆フライはもちろんのことビバークフライトの分野にも広がっています。このハーネスはパラグライダー専用です。

新世代ネオコロイドバックプロテクター

Neo Koroyd　2.2　バックプロテクターは、パラグライダーの世界での実際の経験において、おそらく最高の耐衝撃性を持つ素材であることがすでに証明されています。Genie X-Liteはネオコロイドプロテクターの最新世代（8cm）を採用した最初のハーネスで、驚くべきプロテクションをより低いパック容積で提供します。

エアロコーン

ハーネスを軽量化しながらも、自己膨張式のエアロコーンを搭載し、高い効果を発揮しています。

人間工学と耐久性

サイドポケットが2つ、メインバックポケットがあります。
専用のハイスペックな新しいダイニーマ素材のおかげで、耐久性も十分です。

テクニカルデーター

サイズ	XS	S	M	L
ハーネス重量 (kg)	2.99 kg	3.08 kg	3.21 kg	3.38 kg
パイロット身長 (cm)	<165 cm	165-175 cm	170-185 cm	185-200 cm
レスキューコンテナ容量 (L)	5.2 L	5.2 L	5.5 L	5.8 L
カラビナの高さ(mm)	450 mm	450 mm	460 mm	480 mm
カラビナの幅(mm)	340-430 mm	340-430 mm	360-460 mm	400-490 mm
コックピット容量(L)	3.8 L	3.8 L	4.0 L	4.2 L

重量はカラビナを含み、インナーバッグ（48g）、フックナイフ（56g）、スピードバー（43g）は含まれません。

認証　CERTIFICATION

Genie X Lite は EN および LTF 認証、最大荷重 120 daN 認証番号です。 PH 342.2021｜CE認証

同送品

1　ハーネス
2　フライトデッキ（コクーン一体型）
3　レスキューディプロイメントハンドル
4　ライトレスキューブライダル
5　Austriaalpain Rocketカラビナ

バックプロテクション

Neo Koroyd 2.2 8cmバックプロテクター
CEおよびEN認証取得

GENIE X LITEの構成要素

1 バックプロテクター

Genie X Liteには、Neo Koroyd 2.2バックプロテクターが付属しています 。 衝撃の後、プロテクターを点検し、破損の有無を評価する必要があります。破損したバックプロテクターは、次に使用する前に交換する必要があります。プロテクターは事故の際にパイロットを可能な限り保護しますが、怪我のリスクを完全に排除することはできません。 Genie X -Liteバックプロテクターは、ENおよびCE認定を受けています。

https://koroyd.com/
詳細情報

2 フットプレート

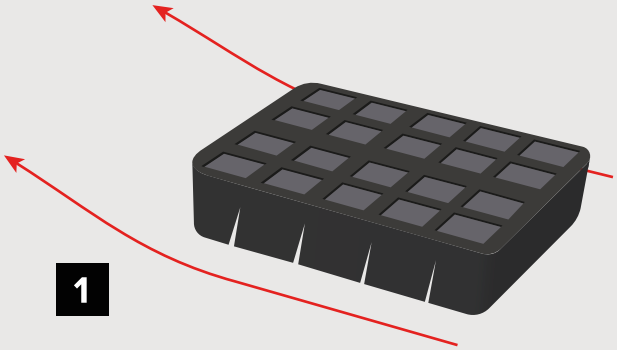
ハーネスに付属するのは、トリプレットフットプレートです。軽量で耐久性に優れ、強度がありながら、木製の代わりに軽量化を実現します。

3 AUSTRIALPIN ROCKET CARABINERS

ハーネスにはAustriAlpin Rocketカラビナ1組が付属しています。 Genie X -Liteはクイックリリース・カラビナには対応していません。

4 フライトデッキ

Genie X -Liteハーネスには、フックナイフが内蔵されたカスタムデザインのフライトデッキが付属しています。 フライトデッキはコクーンとシームレスにつながるように設計されており、GPSやバリオなどのフライト機器を収納するスペースが確保されています。 また、フライトデッキには5Lのポケット（Mサイズ）があり、フライト中に簡単に取り出せるものを入れたり、バラストとして使用したりすることができます。



フライト前に

販売店がハーネスに不備がないか、基本的な設定を確認していることを確認してください。ハーネスの組み立ては、適切な資格を持つパラグライダーの専門家（例：インストラクター）が行ってください。

Gin Gliderでは、次の順序で組み立てることを推奨しています。この手順について少しでも疑問がある場合は、インストラクター、GINディーラー、輸入元から専門的なアドバイスを受けるようにしてください。

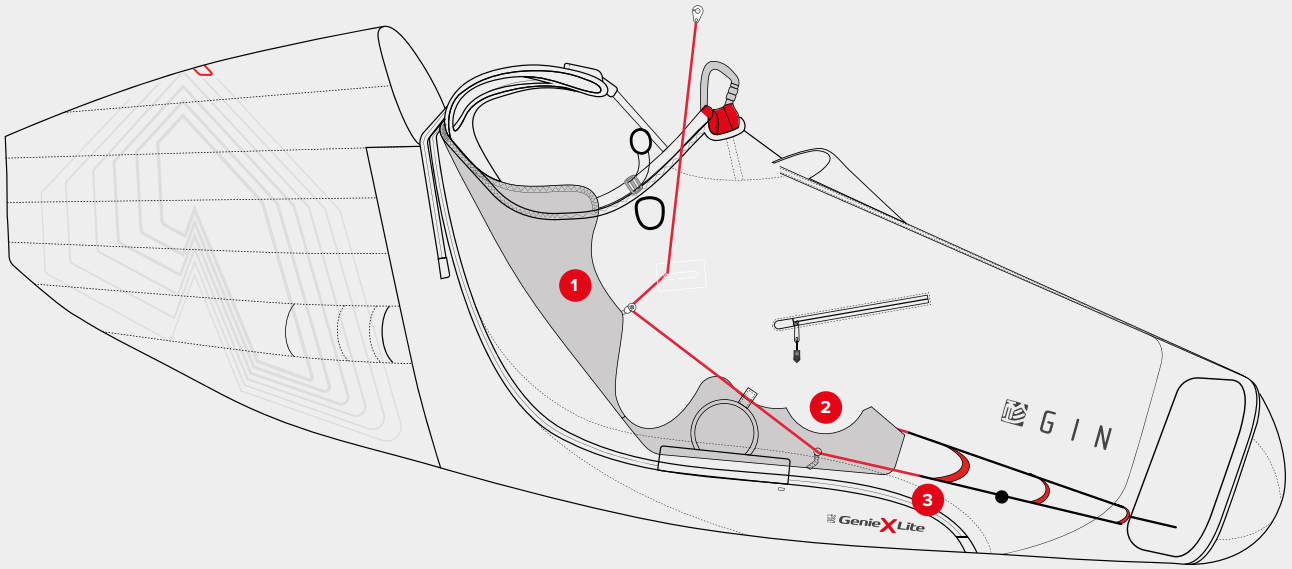
スピードシステムの設置

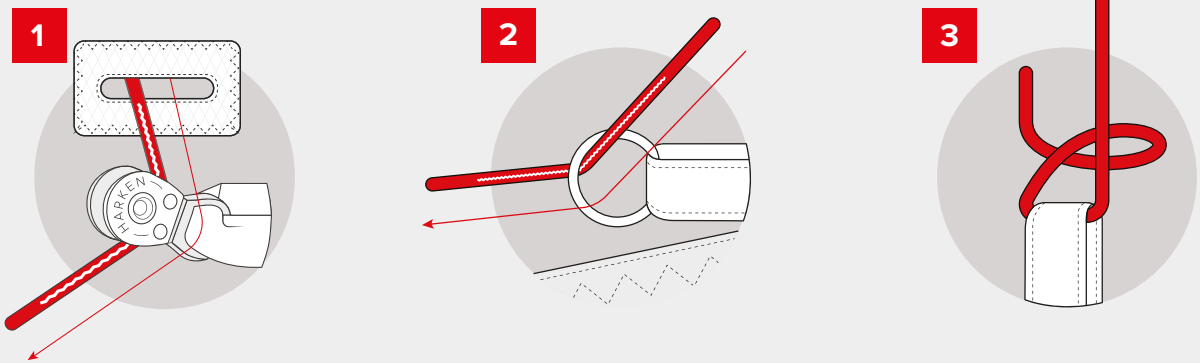
スピードシステムを上から下へ組み立てます。 ハーネスの内側にコードを通し、プーリーに通します (1)。 プーリーから、コードをシート下端の金属製リングに通します (2)。 コードをスピードバーにしっかりと結びます (3)。 最後にスピードバーのゴム紐をコクーンのフットプレートに取り付けます。

シミュレーターに吊るした状態で、スピードバーのコードがハーネス前面から15cm以上下になるように調整します。コードが短すぎると、飛行中にスピードシステムが常に、あるいは意図せずに作動してしまうことがあります。スピードバーは少し長めにしておき、初飛行の後に短くするのが安全です。スピードバーのテストは、新しいハーネスに慣れてから、地面から十分な高さのある穏やかなコンディションで行ってください。

注意: スピードシステムが短すぎないことを確認してください。パラグライダーのフロントライザーは通常（アクセル無し）のフライトで引き下げられないようにしてください。

スピードシステムの調整については
19 ページを参照してください。





バックプロテクタの装着

Genie X -liteにバックプロテクターを取り付けるには、まず、シートの下にあるジッパーコンパートメントを開けてください。図のようにバックプロテクターを挿入します。 バックプロテクターを適切な位置に誘導し、プロテクターの前部がボトムサポートとレスキューコンテナの間に収まるようにします。 バックプロテクタはコンテナにぴったりと収まるはずです。 保護装置が正しく取付けられていることを確認したら、保護装置のコンパートメントのジッパーを閉めて下さい。

バックプロテクターのメンテナンス

離着陸時や輸送時（空港の係員など）の乱暴な扱いによってバックプロテクションが破損した場合に備えて、定期的に点検することをお勧めします。
破損の形跡があるバックプロテクターを装着してのフライトはお控えいただくことをお勧めします。

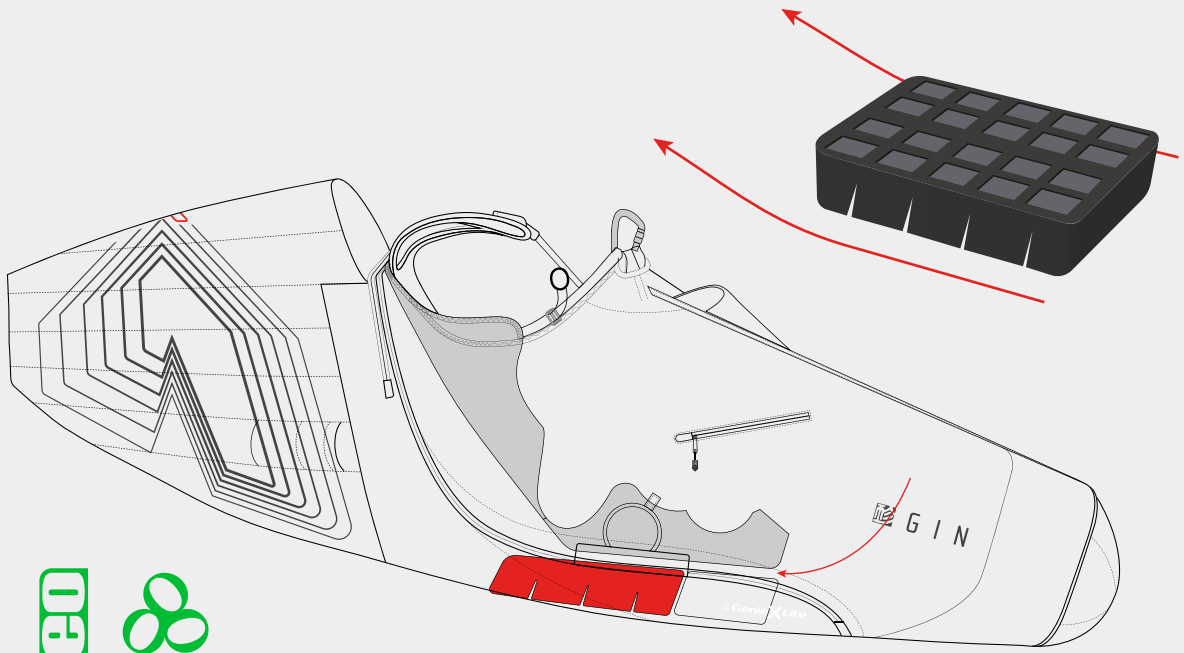
警告：*バックプロテクターは、衝突によるケガの可能性をなくすものではありません。*

警告：*背面保護ジッパーが完全に閉じられていない場合、プロテクターは効果的に機能しません。*

警告：*ハーネスが摂氏70度を超える温度にさらされた場合、バックプロテクターの完全性が損なわれる可能性があります。*

警告：*Koroyd 2.2バックプロテクターの有効期限は5年間です。有効期限は目安であり、使用状況、お手入れ、メインテナンスによって変化することがあります。*

警告：*レッグストラップを座板の後ろに通すのを忘れると、パイロットがハーネスから落ちる危険性があります。*



レスキューインストール

レスキューインストールと互換性チェック

Gin Gliderでは、レスキューの取り付けは有資格者が正しく行うことを推奨しています。レスキューパラシュートはパイロットの最後の手段であり、レスキューパラシュートを正しい方法でパッキングまたは接続しないと、死亡または重症を負う可能性があります。 パイロットの責任において、正しく装着してください。
このハーネスはYeti UL、G-Lite（レスキューサイズと容量をご確認ください）、Yeti、Yeti Crossのレスキューパラシュートに対応しています。他メーカーのレスキューも使用可能ですが、その機能を保証するものではありません。互換性の確認はパイロットの責任で行ってください。
ハーネスにレスキューシステムを初めて取り付ける場合（つまりハーネスとレスキューシステムの新しい組み合わせの場合）、必ずパラグライダーの専門家が互換性を確認する必要があります。取り付けを確認するためには、シミュレーターに座ってのテストデプロイメントを行う必要があります。
レスキューパラシュートは少なくとも150日ごとにリパックする必要があります。従って、新しいハーネスにレスキューを取り付けることもリパックの良い機会になります。レスキューパラシュートをリパックした後は、必ず互換性チェックも行ってください。
ハーネスには専用のレスキューコンテナが付属しており、レスキューを取り付ける際にはこのコンテナを使用しなければなりません。現行のGINレスキューインナーコンテナはすべて、このレスキューグリップとの互換性があります。他のメーカーの場合はそうでない場合があります。

レスキューの互換性

レスキューパラシュートをレスキューコンテナから引き出せることを確認すること–*パイロットがシミュレーターから吊るされたハーネスに座って行う必要があります。*

レスキュー開傘

レスキューを開傘するには、レスキューグリップをしっかりと握り、ハーネスから少し離れた位置へパイロットの方に引き、レスキューコンテナからレスキューを取り出します。レスキューをコンパートメントから引き出すのと同時に、空域（ライン、グライダー、ハーネスがないこと）を確認しながらその方向へレスキューをスイングさせます。グリップを離すことでレスキューラインが伸びていくように投下します。レスキューラインが伸びたら、レスキューはレスキューコンテナから出てきて膨らみ始めるはずです。
ネガティブスピンの場合、パイロットとグライダーの移動速度はスパイラルの場合よりはるかに遅くなります。したがって、できるだけ大きなパワーでレスキューをパイロットから離して投げ、素早くラインを伸ばし、レスキューがパラグライダーに絡まないようにすることが非常に重要です。
レスキューの開傘に関する詳しい情報は、レスキューマニュアルを参照してください。

警告：*レスキューの装着について疑問がある場合は、専門家の助言を求めてください。*

重要：*正しい装着を確認するために、シミュレーターから引き出しテストを実行する必要があります。*

レスキューグリップとレスキューコンテナの接続

このハーネス用のレスキューコンテナには専用のレスキューグリップが付属しており、これを使用しなければなりません。このグリップとストラップは、パラシュートのインナーバッグに接続されていなければなりません。特に、レスキューグリップとインナーバッグをつなぐストラップの長さを確認してください。ストラップの長さはピンが抜けインナーバッグを取り出すのに十分な長さが必要ですが、過度に緩んで投下に必要な動作に時間がかかるような長さであってはいけません。

他社製レスキューシステム（GIN以外のレスキューシステム）のインナーバッグは、ループの位置が異なる場合があり、投下に失敗する場合があります。必ずパラシュート販売店または有資格者に連絡し、接続の確認、位置の確認、確実な投下テストを行い、詳細はレスキューマニュアルを参照してください。

重要：*Genie X-Liteに付属しているレスキューインナーバッグのみを使用してください。他のレスキューインナーバッグを使用すると、投下に失敗することがあります。*

インナーバッグ

1

レスキューグリップ

2

センターループへストラップを通します

3

ストラップへグリップを通します

4

結び目はきれいにしっかりと締めます

インナーコンテナへの収納

あなたのレスキューパラシュートを付属のインナーコンテナへ収納します。

パック済みのレスキューパラシュートをインナーの中に納めます。

パラシュートの底に60 ㎝のサスペンションラインを納め、センターのバンジーコードで止めます。

サスペンションラインをインナーバッグの幅に織り込みます。

サスペンションラインの束をゴムバンドを用い整え写真のように納めます。

下のフラップを写真のように閉じてセンターのバンジーコードで止めます。

約40 ㎝のサスペンションラインを残して、ハーネスのブライダルコードと接続します。

ブライダルコードとの接続

ハーネスにレスキューパラシュートを接続するには、GIN レスキューカラビナを使用することをお勧めします。その他のタイプのコネクタを使用する場合は、最大重量の 9 倍以上の強度を伴う必要があります。たとえば、推奨される 6mm ステンレススチール製のスクリューゲート・マイロン スクエア コネクタには、最低 12,5kN(1250 Kgf の破断強度があります。レスキューパラシュートシステムの互換性を確認し、それが正しくインストールされていることを確認するのはパイロットの責任です。

通常のメンテナンスおよび安全チェックでは、 必ずコネクタを検査してください 。 摩耗の兆候があるときはいつでもそれを交換し 、 任意の開傘後には専門家とあなたのレスキューシステムをチェックしてください 。過剰な摩擦を防ぐために 、 マイロン のラピッドカバーを使用して接続をカバーすることをお勧めします 。ゴムバンドは 、 アタッチメントを固定し 、 過剰な摩擦を防ぐためにも使用する必要があります 。

GIN推奨コネクター 6 mm ステンレススチール製スクリューマイロン

6 MM スクリューマイロン
破断強度 12,5KN

マイロンの接続方法（GINGLIDERS推奨）

警告：*レスキューブライダルを接続するときは 、ゴムバンドまたは熱収縮チューブ等を使用して保護して得ください。接続が不完全な場合、摩擦により燃焼または切断する可能性があります。*

重要：*レスキューパラシュートを必ずブライダルコードへ接続願います。*

レスキューパラシュートインストールガイド

レスキューパラシュートを適切に収納することは非常に重要です。パラシュートが正しく折り畳まれていない場合、またはラインが適切に配置されていない場合、死亡事故が発生する可能性があります。疑問がある場合は、インストラクターや GIN のディーラーと話してください。

主なレスキューインストールガイド

まず、ブライダルとレスキューグリップをレスキューパラシュートに接続することから始めてください。レスキューをハーネスに取り付ける際、グリップの接続部分を上に向け、余分なサスペンションラインはコンテナの底にきちんと折りたたんでおきます。レスキューグリップのループがレスキューコンテナの開口部に向くようにインナーバッグを装着してください (2)。ブライダルトンネル用のスライダー（左）と、コンテナ閉鎖用のスライダー（右）を図の位置へスライドさせます(3)。ループにパラコードを通し、ループを接続しジッパーが開かないことを確かめます(4)(5)。短い方のレスキューグリップワイヤーを図のようにループに通しジッパーが開かないように固定します(6)。グリップワイヤーをハウジングに納め左右のジッパーを閉じ パラコードを外します(7)。 長い方のグリップワイヤーをグリップカバーと一緒にハウジングに納めカバーをベルクロで閉じます(8)。

*次ページの説明に従ってください。

警告：*レスキューを取り付けるときは、レスキューグリップが上にあり、ラインが下を向いていることを確認してください。*

1

2

3

4

5

6

7

8
GenieXLite

収納スペース

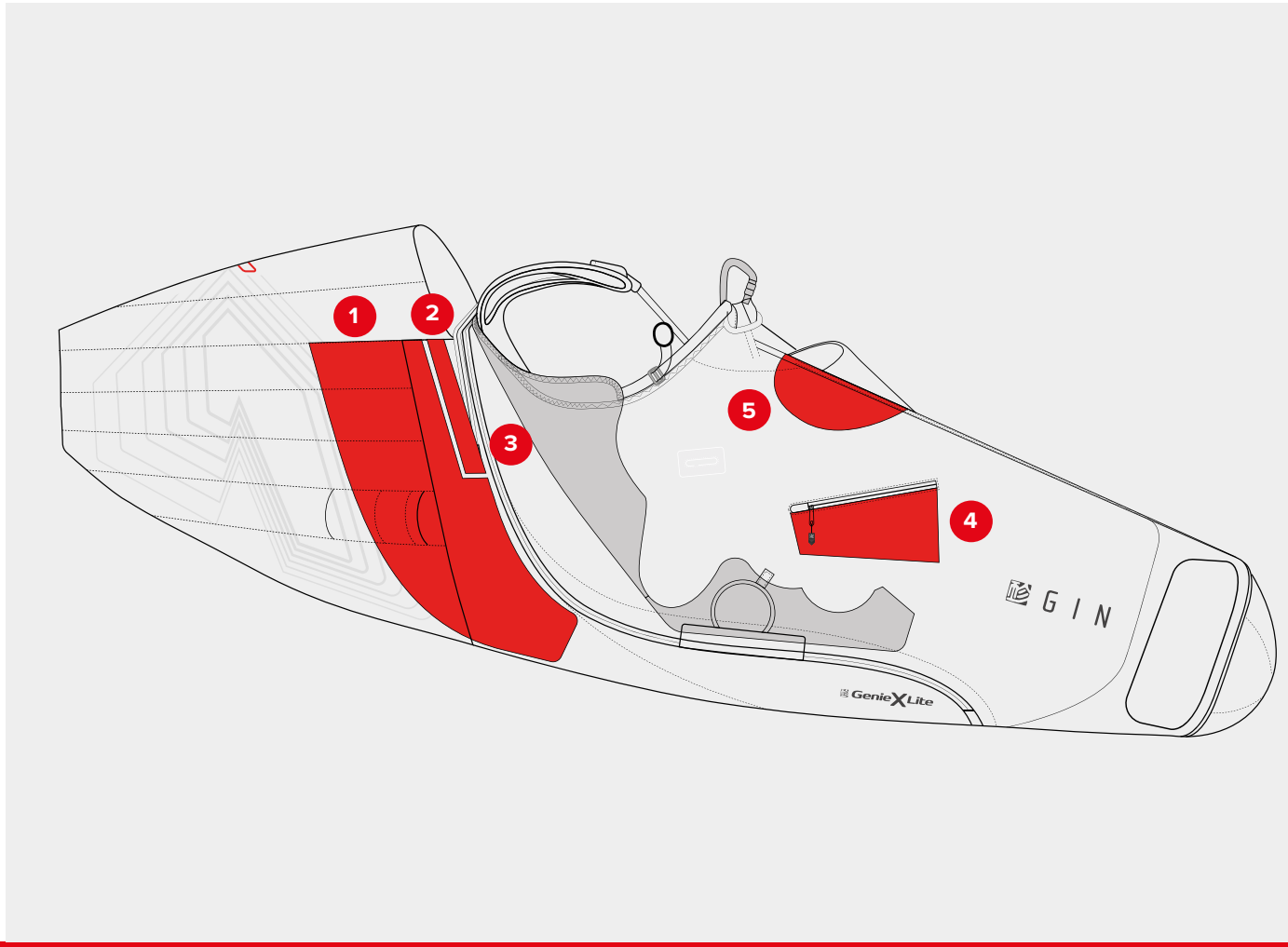
バックポケット（1）
バックポケットは飛行中にパイロットリュックサックや他のアクセサリー を格納するように設計されています。

ハイドレーションポケット/ 貴重品用ポケット （2）
キャメルバックまたは他の小さい持ち物を保持することができる小さいポケット。

無線機ポケット（3）
無線機ポケットです。
バックポケットの上部には 、 無線機用マイクや水ホースに使用できる穴があります 。

サイドポケット（4）
ハーネスの左右、 カラビナのすぐ下に位置し 、 飛行中にスナックや小型デジタルカメラなどの小さなアイテムを保管するために使用できるジッパーポケットです 。

コックピットポケット（5）
コックピット収納ポケットは、4.5L の水バラスト (M サイズ またはコンチェルティナバッグやその他の小さなアイテム収納することができます。空中でアクセス可能ですが、重要なものは、アクセスしやすいサイドポケットを利用してください。



調整

体のサイズに応じたハーネスを選択したら、あなたの体格と飛行スタイルに合わせてハーネスを調整します。離陸後速やかにシッティングポジションへ移行できるように、正しく調整することが重要です。 調整が不十分なハーネスは、パラグライダーの飛行特性に悪影響を及ぼす可能性があります。

シミュレーターにぶら下がった状態で初飛行前に調整を行い、最初の数回のフライト中に必要に応じて設定を微調整します。

ショルダーストラップ（1）
ショルダーストラップの最適な設定は、パイロットの身長によって異なります。ハーネスに足を踏み入れ、チェストストラップを閉じてスタンディングポジションを取り、肩のストラップをぴったりフィットするまで対称に調整しますが、締めすぎないようにしてください。

締めるには
赤のループを引き下げます。
緩めるには
肩ストラップの上部にあるバックルを引き上げます。

ブレストストラップ（2）
ショルダーストラップを調整した後、ブレストストラップを快適な幅、ショルダーストラップにわずかな圧力がかかるように締めます。

レッグストラップ
レッグストラップの長さは調整できません。

ABSストラップ（3）
ABSシステムは、簡単にチェストストラップによって調整することができます。チェストストラップを開放する設定で飛行するとハーネスをより敏感にし、サーマリング中や渋めの条件で翼からの情報を感じやすくなります。

スピードバーを踏むときや条件が荒い場合、チェストベルトを閉じた設定は最も安定した動作を提供し、翼のすべての動きを減衰させます。

メモ： *調整 を行う前に、レスキューシステムが収納されていることを確認してください。*

ラテラルストラップ（1）

ラテラルストラップは太ももと背中の角度を調節することができます。ストラップを長くすると角度が増し、その逆は角度が狭くなります。正しく調整するには、穏やかなコンディションの中で飛行中行うのが最も効果的です。スパインポジション すなわち、後ろへ傾いて飛行すると、ハーネスの安定性が低下し、潰れが発生した後でライザーがねじれるリスクが高くなることを覚えておいてください。締めるには、ストラップを前方に引っ張ります。緩めるには、バックルを緩めストラップを引き戻します。

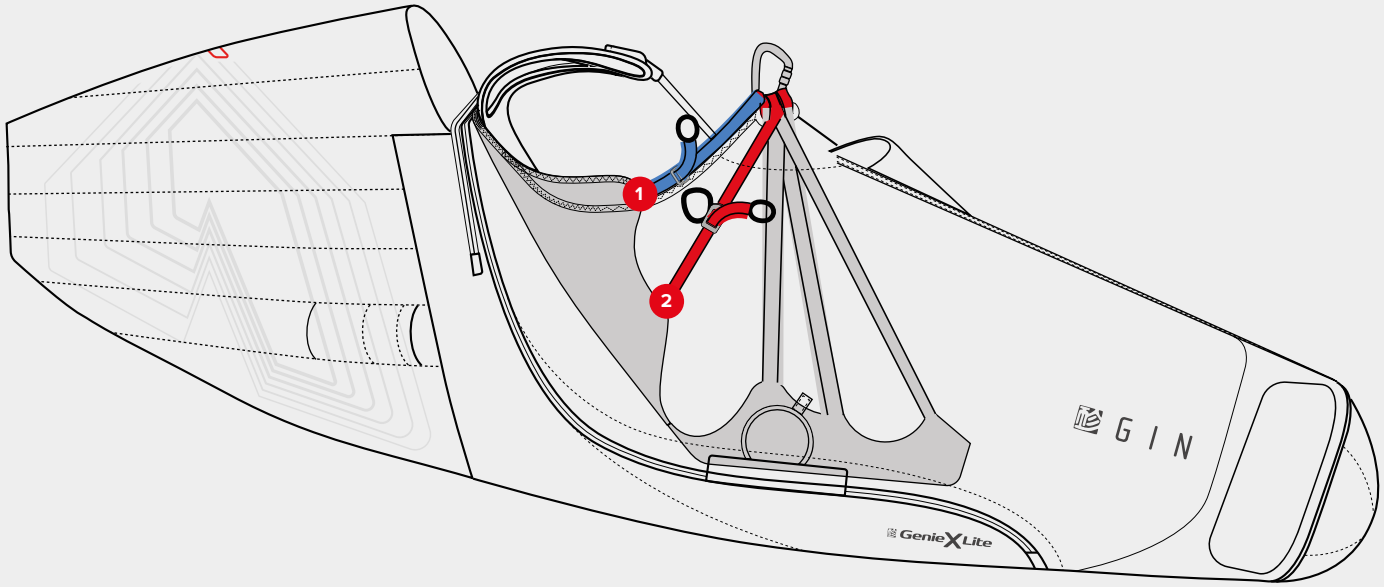
シートストラップ（2）

サイドの調節ストラップでは腰の角度を調節することをができます。 最適な調整を得るためには 、ハーネスに座った状態で最大限にこれらのストラップを緩め 、 パイロットの飛行スタイルに応じて最適な角度になるまでストラップを引き込むことで調整します 。

締めるには、 ストラップを引き上げます 。緩めるには 、バックルを下に下げます 。

スピードバー

シミュレーターにぶら下がって、バーがハーネスの前面の下に少なくとも 15cm 垂れ下がるようにスピードバーコードの長さを調整します。コードを短くしすぎると、飛行中に速度システムが常に引き込まれた状態での飛行になってしまう可能性があります。スピードバーは少し長めの設定で始めて、少しずつ短くする方が安全です。新しいハーネスに慣れた後に飛行中のスピードバーをテストし、地上に十分なクリアランスを持つ穏やかな状態で調整しましょう。



1 ラテラルストラップ

2 シートストラップ

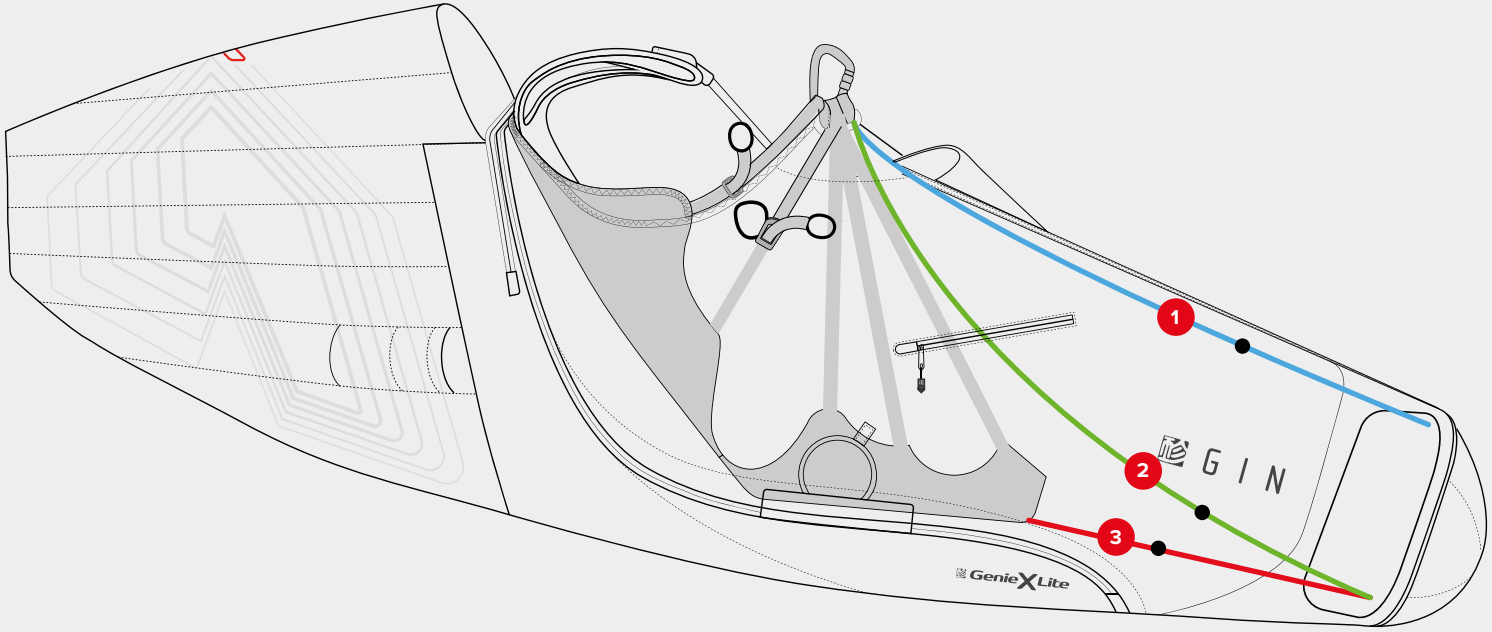
コクーンの調整

コクーンはタイトに調整する必要があり、生地はスムーズで皺の無い状態に保つことが空力抵抗の最も少ない形状となります。コクーンの先がほんの少し下がったバランスでセットするのが良いでしょう。

(1) 上部のラインを引き込むとコクーンの先が上がり、緩めると先が下がります。

(2) 斜めのラインではポット全体の長さを調整します。

(3) 下部のラインを引き込むとコクーンの先が下がり、緩めると先が上がります。



GENIE X LITEでの飛行

一般的な警告とアドバイス

すべてのフライトの前に、次の点を確認してください。

- ⊙心身の状態はよろしいですか？
- ⊙フライト範囲に適用されるすべての法規に精通し、準拠していますか？
- ⊙装備重量がパラグライダーの認定重量範囲内にありますか？
- ⊙有効な保険 責任、医療、生命など に加入していますか？
- ⊙あなたは、飛行エリア、エアスペース、一日の予想気象条件について徹底的に調査済みですか？
- ⊙あなたの機材とサイトの選択は、あなたの経験のレベルに適していますか？
- ⊙あなたは適切なヘルメット、手袋、ブーツ、アイウェアと十分な服を持っていますか？
- ⊙あなたは何らかの身分証明書を携帯して、事故に遭った場合に自分が誰であるかを証明できますか？
- ⊙可能であれば、無線機や携帯電話を所持してください。
- ⊙新しい機材を安全に使用する方法を理解していますか ？もしそうでなければ、インストラクターやディーラーに確かめてください。

新しいハーネスで初飛行をする際は、不安な要素がないコンディションとサイトを必ず選んでください。

プレフライトチェック

通常のプレフライトチェックルーチンの一環として、以下を確認します。

- ⊙ハーネスやカラビナに耐空性に影響を与える損傷はありますか？
- ⊙レスキューパラシュートコンテナのピンが正しい位置に正しく閉じていますか？
- ⊙レスキューグリップが正しく接続されていますか？
- ⊙すべてのバックル、ベルト、ジッパーはしっかりと固定されていますか？ バックルは、所定の位置にクリックする必要があり、クリック後バックルを軽く引っ張りしまり具合が正しいかを確認します。バックルを固定した後、ジッパーが閉まっているかも確認します。雪や砂浜の環境では特別な注意を払ってください。
- ⊙パラグライダーは、両方のカラビナをロック機構で固定してハーネスに正しく接続されていますか？
- ⊙スピードバーはグライダーに正しく取り付けられていますか？
- ⊙すべてのポケットは適切に閉じられ、緩んでいるアイテムも安全に縛られていますか？
- ⊙空気室の取り込み口が正しく開いていますか？
- ⊙レッグストラップ、チェストストラップを閉じましたか ？離陸直前にダブルチェックしてください。

i **重要：***プレフライトチェックは完全で一貫したシステムを使用し、すべてのフライトで同じシーケンスを繰り返します。*

i **重要：***Genie X -Lite の 最大搭載重量は 120 kgであり 、 この重量以上の飛行はお勧めできません 。*

レスキューパラシュート開傘手順

緊急事態が発生した場合は、自分のおかれた対地高度を考慮しインシデントの深刻さを迅速に評価する必要があります。レスキューパラシュートの開傘過程に数秒のためらいがあると、高さが不十分な場合には致命的になる可能性があります。一方、グライダーが回復可能な場合にレスキューパラシュートを開傘すると、不必要な損傷を引き起こす可能性があります。

レスキューを開傘する場合

1) レスキューグリップを探し、片手でしっかりとつかむ。
2) レスキューグリップを前方に引き上げて、レスキューコンテナからインナーコンテナを引き出します。
3) 何もない空間を視認し、連続した動作で、投げつけ（グリップを放します）。レスキューパラシュートがあなたとグライダーから風の流れに沿って又はスピンに逆らって離れていかせます。開傘後は、B、C、D、またはブレーキラインでできるだけ対称にグライダーを速やかに引っ張って、パラシュートとの絡み合いや振り子の動きを避けてください。
4) 着陸時に直立体の位置を取り、怪我のリスクを最小限に抑えるために PLF(パラシュート着陸落下 を行う準備をしてください。

Genie X Liteでの着陸

着陸前には、ハーネスの中から足を前方にスライドさせて、スタンディングポジションで構えます。決してシッティングポジションのまま着陸しないでください。 背中にバックプロテクターがあるとしても、非常に危険です。着陸前に立ち上がることが能動的な安全対策です。

重要：*通常の飛行では、定期的にレスキューグリップの位置を感じ、レスキューグリップに手を伸ばす行動が、緊急時に本能的動作につながります。*

警告：*飛行中にインシデントが起こった場合は、常に高度を監視してください。回復に十分な高さがあるかどうかという疑問がある場合は、ためらうことなくレスキューパラシュートを投下してください。*

メモ：*レスキューパラシュート開傘後は、あなたのハーネスの、接続ポイント、レスキューブライダルまたは他の部分に損傷がないことを確認するために、資格のある専門家によって徹底的に検査することが不可欠です。*

その他

トーイング

Genie X-lite はトーイングに使用できます。Gin Towing Bridleをメインカラビナに直接フックすることができます。 詳しくは、トーイングリリースに付属の資料を参照するか、飛行場にてトーイングの資格を持つインストラクターにお尋ねください。

タンデムフライト

Genie X-lite 4はタンデムフライト用には設計されていません。タンデムフライト専用のハーネスについては www.gingliders.com をご覧ください。

水上での飛行

背中のプロテクターにより、パイロットが頭を下げた状態で浮くリスクが高まるため、着水は絶対に避けなければなりません。水上での安全な訓練には、無意識の状態でも頭部を水面上に保持するヘッドサポート付きの適切なフローテーションベストを着用することをお勧めします。

メンテナンスと修理

このハーネスに使用されている素材は、耐久性を高めるために厳選されたものです。しかし、ハーネスをできるだけ長く安全に使用するために、ハーネスを清潔に保ち、空気の入れ替えを行うようにしてください。

お手入れ方法とメンテナンス

ハーネスを引きずって荒れた土地や岩場に行かないこと。紫外線や高温多湿の場所に放置しないでください。使用しないときは、折りたたんだハーネスをリュックサックに収納しましょう。

すべての機器は涼しく乾燥した場所に保管し、湿った状態や濡れた状態では絶対に片付けないようにしてください。定期的にプラスチック製の毛ブラシや湿った布で汚れを落としてください。ハーネスが特別に汚れた場合は、水洗いしてください。その際、レスキューパラシュートなどのサブコンポーネントをすべて取り外してください。ハーネスは、直射日光を避け、風通しの良い場所で自然乾燥させてください。レスキューパラシュートが濡れてしまった場合　(着水時など）ハーネスから取り出し、乾燥させてから、再度入れ直す必要があります。
ハードランディングの後は、ハーネスとバックプロテクターに損傷がないか、レスキューコンテナに細心の注意を払い、すべてのアタッチメントがしっかり固定されているかどうかを確認する必要があります。

点検用チェックリスト

パイロットはレスキューのリパック毎に以下の点検を行い、24ヶ月または200時間飛行した後に専門家による点検を受ける必要があります。(どちらか早い方)。墜落、不時着、離陸の後や、損傷や過度の磨耗が見られる場合は、追加の点検を行う必要があります。疑問がある場合は、必ず専門家のアドバイスを受けてください。

重要 ：*修理は、メーカーまたは認定された代理店のみが行ってください。これにより、正しい材料と修理技術が使用されていることを確認できます。*

重要 ：*ハーネスのウェビングに何らかのダメージがある場合は、絶対に飛行させてはいけません。*

次のようなチェックが必要です。

- すべてのウェビング、ストラップ、バックルに摩耗や損傷（例：縫い目の開き、破れ、切断）がないか、特にカラビナのフックインポイントの内側など、見えにくい部分をチェックします。
- 縫製はすべて無傷で、異常があればすぐに対処し、問題の悪化を防がなければなりません。
- レスキューの取り付け、特にゴムやベルクロの部分には特別な注意を払う必要があります。
- メインカラビナは、少なくとも5年ごと、または500時間経過した時点で、どちらか早いほうに交換する必要があります。衝撃によって検出できない亀裂が生じ、継続的な負荷がかかった場合に構造的な不具合が発生する可能性があります。
- プロテクターは入念な目視点検をしてください。

修理

ハーネスの重要な部分に関わる修理は、メーカーまたはGIN正規販売店が行う必要があります。これにより、正しい材料と修理技術が使用されていることを確認できます。

保管

温度10°～25°C、相対湿度50～75%で保管する。ネズミや猫などの動物が寝床にするような場所にハーネスを保管しないようにしてください。

化学物質（水を含む）の近くにハーネスを保管しないでください。ガソリンなどは、素材を劣化させ、ハーネスに大きなダメージを与える可能性があります。トランクルームに保管する場合は、予備のガソリン缶やオイル容器からできるだけ離してください。

ハーネスを極端な熱にさらさないでください。高温は加水分解を促進し、特に水分と結合すると、繊維やコーティングに損傷を与えます。ハーネスはラジエーターやその他の熱源の近くに保管しないでください。

GINの品質とサービス

私たちは、製品の品質に誇りを持ち、製造上の欠陥に起因する、機器の安全性や機能に影響を与えるいかなる問題も是正することをお約束します。万が一、機器に不具合が生じた場合、まず最初にご連絡いただくのは、GINの販売店です。販売店やGIN輸入元と連絡が取れない場合は、Gin Gliderのウェブサイトから直接お問い合わせください。

GIN lifetime guarantee

Gin Gliderは、すべての製品の品質、クラフトマンシップ、性能を保証することを誇りに思っています。機器材料または製造上の欠陥がある場合、Gin Gliderの判断で修理または交換を行います。製品の実質的な耐用年数 また、消耗品、誤用、放置による損傷は、修理の対象となることがあり、その場合は修理の実費をいただく場合がございます。

もし問題が発生した場合は、まずGIN販売店、またはホームページから直接Gin Gliderにご連絡ください。

環境への配慮

私たちは、優れた自然美を持つ地域で飛行する特権を与えられています。環境に与える影響を最小限に抑えることで、自然を尊重し、保護することができます。ある地域を訪れる際には、環境的に敏感な地域や地域の制限の詳細について、地元のクラブに問い合わせてください。Gin Gliderは、ハーネスのライフサイクル全体を考慮し、最終的には環境に配慮した形でリサイクルしています。ハーネスに使用されている合成素材は、各自治体の指示に従って廃棄してください。もし適切な処分を手配できない場合は、Gin Gliderが喜んでハーネスのリサイクルを承ります。ハーネスにその旨を記したメモを添えて、あなたが直接Gin Gliderまでお送りください。

製品登録について

本製品を登録すると、安全性に関する最新情報の提供や、保証・修理サービスの充実を図ることができます。

www.gingliders.com/register

終わりに...

現代の私たちの多くは、規制され保護される依存社会の中で生きています。パラグライダーのようなエクストリームスポーツでは、安全の基礎となる自己責任能力を個人が身につける機会がほとんどありません。

事故の多くは、自分の経験レベルに対してあまりにも過酷な状況に陥ることによって引き起こされます。これは、基本的な理解が不足していたり、リスクを判断できなかったり、単に周囲の状況や自分の精神状態に十分な注意を払わなかったりした場合に起こります。

安全を確保するためには、自分が安全に管理できる速度で、理解、スキル、経験を高めることが最善の方法です。自己責任と適切な判断に代わるものはありません。

結局のところ、パラグライダーは自分の運命を自分でコントロールすることを学ぶまたとない機会を提供してくれるのです。

GIN

Fly safely, and...**ENJOY!**

GIN team

スペック

Size	XS	S	M	L
カラビナ幅(cm)	340-430 mm	340-430 mm	360-460 mm	400-490 mm

認証

The Genie X-Lite iは **EN** と**LTF** の認証を受けてます, 最大荷重120 daN 承認番号: **PH 342.2021** | **CE** certification

パラシュートコンテナ

シート下のコンテナ内蔵

バックプロテクター

KOROYD 2.2 8cm Back Protection

素材

ハーネス生地	
アウター	70D EXTREEMA R/S PD WR PU2 Dark Grey
インナー	70D EXTREEMA R/S PD WR PU2 RED
エアコーン	NP 70D HEATHER PU2 58” (vol.12 #76) Dark Grey
テープ	Technisangles 13mm Dyneema (SP15 RED without logo)
縫い糸	(bond)S9AC V92(280D/3) BLACK/ NKZF013-BLACK/RED(N/F 210D/9) - S9AC V92 (280D/3) RED / BLACK / BLUE

パイロットの詳細／所有者証明

1.所有者
氏名:
住所:
電話番号:
Email:

2. 所有者
氏名:
住所:
電話番号:
Email:

3. 所有者
氏名:
住所:
電話番号:
Email:

ハーネス詳細

サイズ	カラー	シリアルナンバー

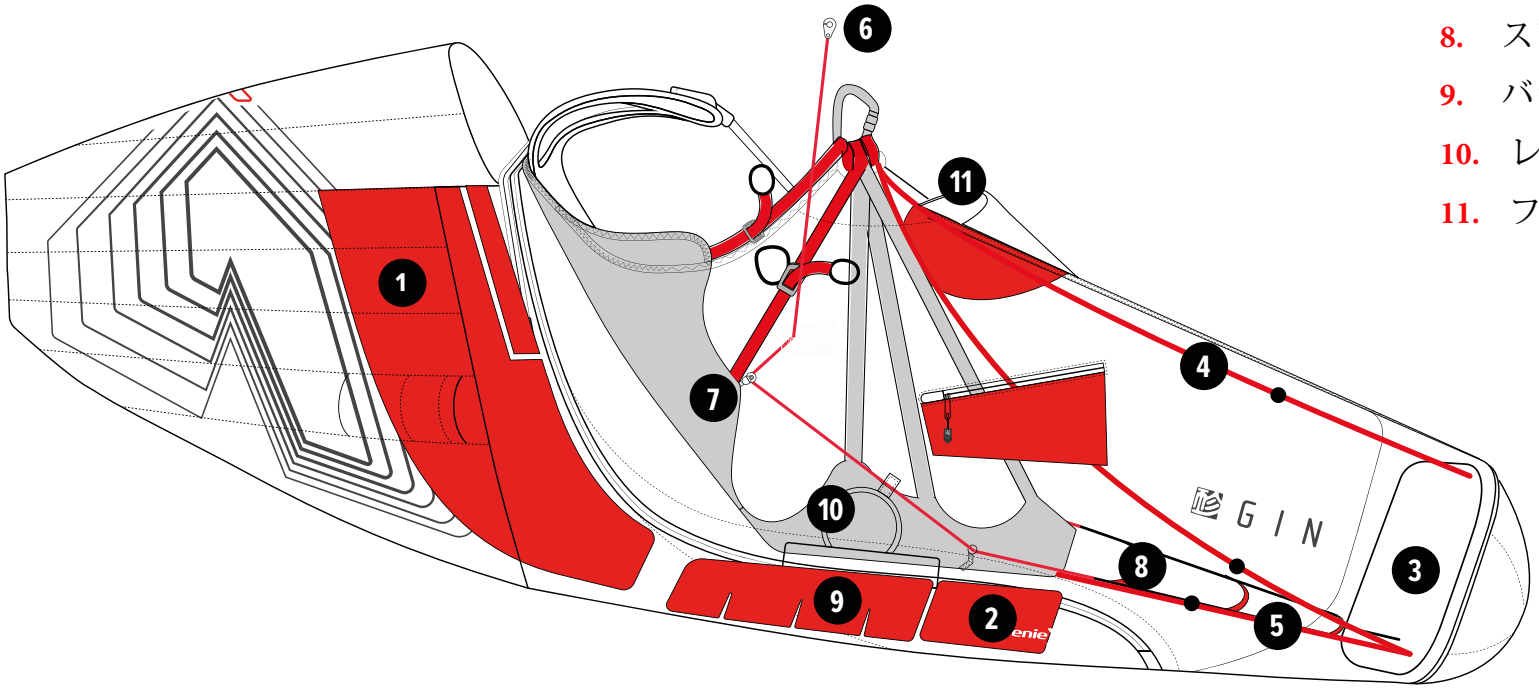
チェックフライト(日付):

サイン:

点検・修理の概要

日付	実施した作業	納品に関する一般的な条件	記入者（氏名）	スタンプ・サイン

ハーネスダイアグラム



1. バックポケット
2. レスキューコンテナ
3. フットプレート
4. コクーン調整ライン（上）
5. コクーン調整ライン（下）
6. スピードシステムフック
7. スピードシステムプーリー
8. スピードバー
9. バックプロテクター
10. レスキューグリップ
11. フックナイフ

Gin Gliders INC.
2318-32, Baegok-daero, Moyheon-myeon,
Cheoin-gu, Yongin, Gyeonggi-do, Korea
17063
tel. +82 (0)31 333 1241
fax. +82 (0)31 334 6788
gin@gingliders.com

www.gingliders.com